

2020年11月発行

大学の就職・キャリア支援活動に関する調査

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、企業の採用環境が激変する中、就活生にとっても厳しい就職活動を強いられた2021年卒就職戦線。先輩たちの体験談を参考にしづらい状況に、多くの学生に戸惑いと動揺が広がった。2022年卒の採用環境においても、先の見通しが不透明な中で、就職支援の現場ではどのような課題をもち、対策に取り組んでいるのだろうか。

ディスコでは、全国の大学の就職課・キャリアセンターを対象に、2021年卒者の就職活動状況、2022年卒者への就職支援、インターンシップ等への意見など、多岐にわたる項目を調査し、分析した。

【主な調査内容】

1. 2021年卒者の就職活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

- [1] 内定状況
- [2] 新卒採用市場の見方
- [3] 求人状況の変化
- [4] コロナ禍における企業対応（大学訪問）
- [5] コロナ禍における就職支援の課題

2. 2022年卒者への就職支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5

- [1] 就職ガイダンスの実施状況
- [2] 就職ガイダンスのオンライン化の有無
- [3] 就職ガイダンスの実施テーマ
- [4] 業界研究・企業研究セミナーの実施状況
- [5] 企業からのアプローチ
- [6] 学生の就職に対する意識所見

3. インターンシップ等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9

- [1] インターンシップ等の求人状況
- [2] 学生の参加状況
- [3] インターンシップ等に関する見解

巻末データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11

《調査概要》

調査対象：全国の大学の就職・キャリア支援担当部署

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2020年9月1日～9月25日

回答学校数：455校

国公立	私立	合計
101校	354校	455校

*「大学3年生」は6年制の5年生と修士1年生を含みます。
「大学4年生」は6年制の6年生と修士2年生を含みます。

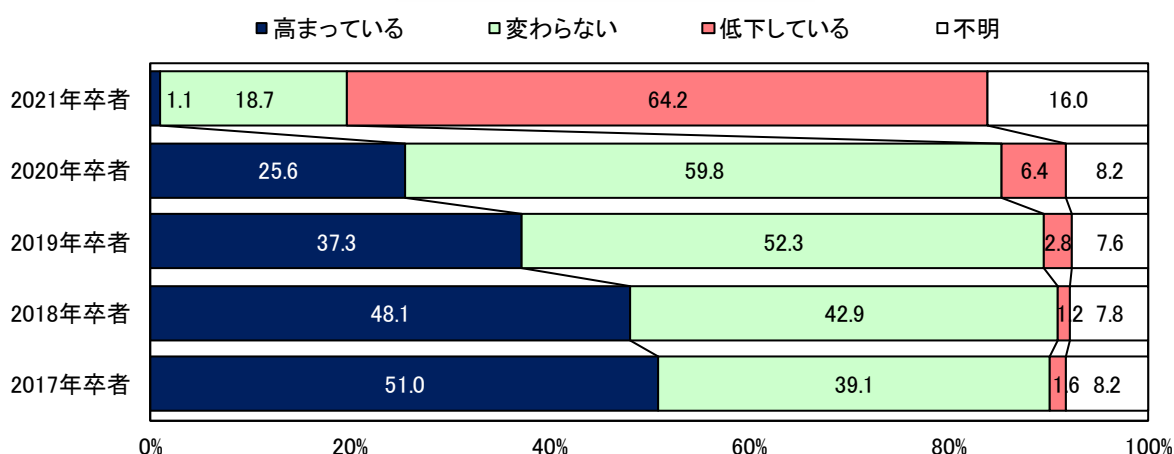
北海道・東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄	合計
48校	167校	69校	103校	30校	38校	455校

1. 2021年卒者の就職活動状況

【1】内定状況（前年度と比べて）

まず、2021年卒者（現4年生）の内定状況について確認したい。前年度と比較して「低下している」という大学が6割強を占めた（64.2%）。「低下している」の割合がこれほど高いのは、この形式で調査を開始した2013年以降、初めてのことだ。2020年卒者までの4年間、「高まっている」割合は少しずつ減少していたものの、「低下している」と回答した大学は限られ、企業の採用意欲の高さを裏付けていた。2021年卒者の就職環境は一転し、潮目が一気に変わったことがわかる。

＜内定状況（前年度と比べて）＞

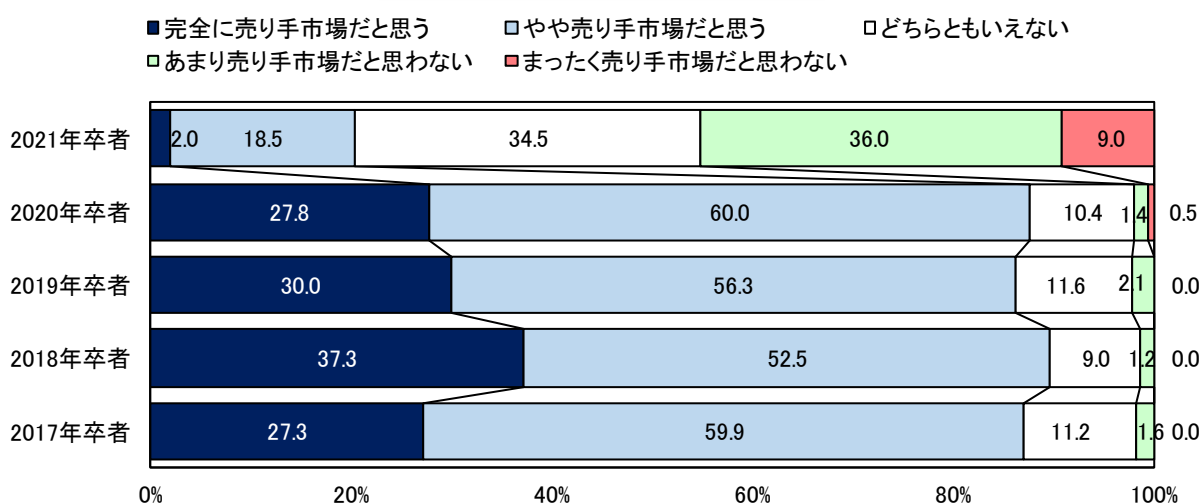


【2】新卒採用市場の見方

就職・キャリア支援担当者としての採用市場の見方にも、大きな変化が見られる。前年度までは、学生に優位な「売り手市場」との見方が9割近くを占めていたが、今年は2割へと大きく減少（計20.5%）。逆に「売り手市場だと思わない」という回答が急増した。「まったく売り手市場だと思わない」（9.0%）、「あまり売り手市場だと思わない」（36.0%）を合わせると半数近く（計45.0%）に上る。

先に見たように、内定状況の低下から、売り手市場ではないとの見方が増えたものと見られる。

＜新卒採用市場についての考え＞

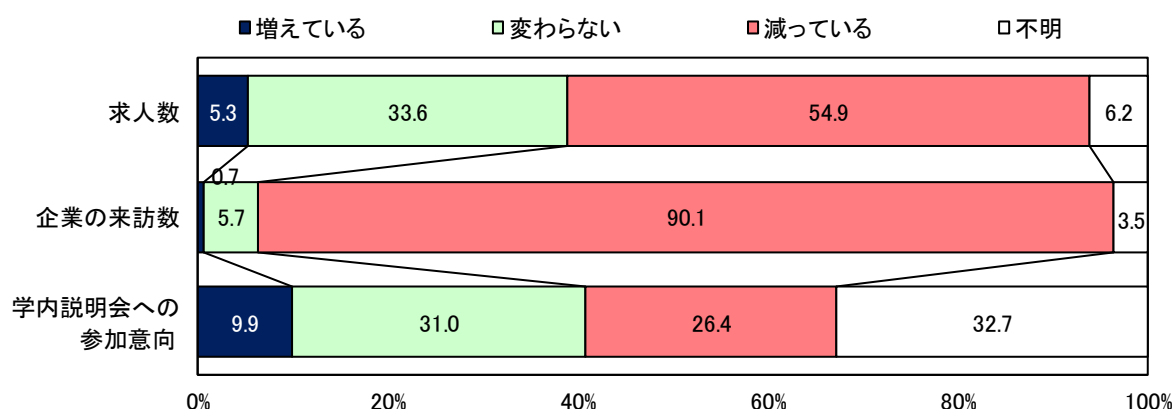


【3】 求人状況の変化（前年度と比べて）

2021年卒者への求人状況に関し、前年度からの変化を尋ねた。求人数は5割強（54.9%）が「減っている」と回答。企業の来訪数は「減っている」が約9割（90.1%）に上った。来訪数はオンラインを含めて回答してもらったが、キャンパスへの入構制限の影響もあり激減しているようだ。

学内説明会への参加意向は、「減っている」が26.4%で、「増えている」（9.9%）を上回る。「不明」が3割強に上り、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学内説明会を予定通りに実施することができず、企業の意向を汲める状況にないという大学も少なくないことがうかがえる。

＜求人状況の変化＞



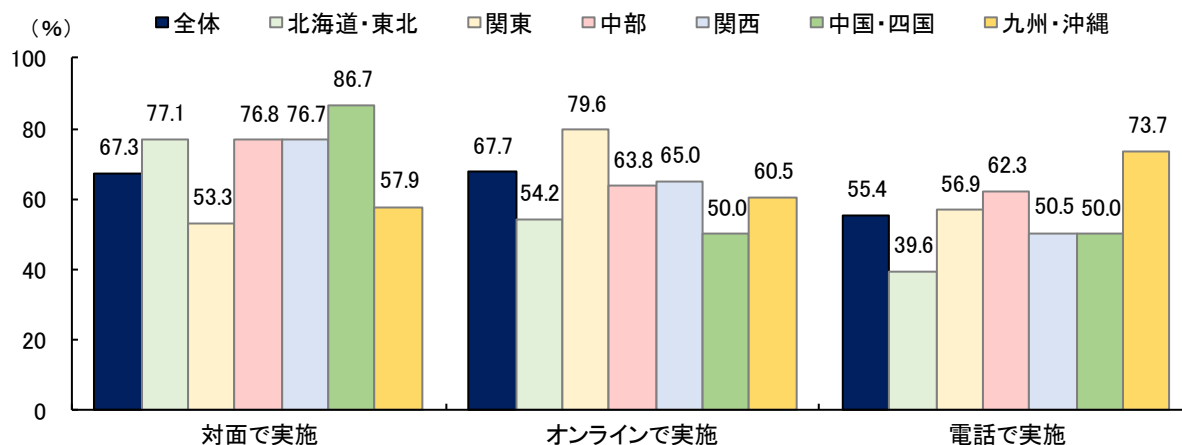
※オンラインを含む

【4】 コロナ禍における企業対応（企業の大学訪問）

9月の調査時点での企業対応（企業の大学訪問受け入れ）に関して聞いたところ、「対面で実施」しているのは7割弱（67.3%）。大学構内への立ち入り制限などで3割を超える大学で企業の来校を受けられない状況だ。その代替手段として、「オンライン」（67.7%）、「電話」（55.4%）を活用して対応していることが分かる。でき得る手段で企業と接点を持とうとしている姿がうかがえる。

地域別に見ると、感染者数の多い東京都を含む関東は、他のエリアに比べ「対面」が低く（53.3%）、「オンライン」が高い（79.6%）。対面での実施割合が高いエリアにおいても、一定の条件が付くケースも多く、「対面は県内企業に限る」や「東京や大阪など感染者が多い地域からはオンラインのみ」「事前にアポイントがなければ構内に入れない」などのコメントが寄せられた。

＜企業からの訪問対応方法＞



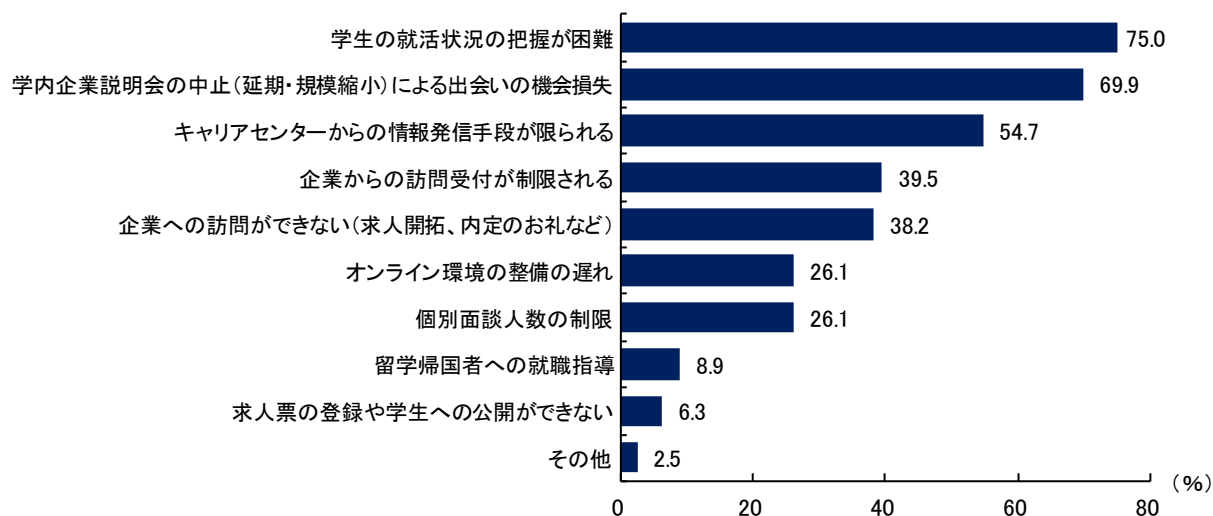
※回答数の少ない地域は参考値

【5】コロナ禍における就職支援の課題

コロナ禍における就職支援で、課題に感じていることについて尋ねた。「学生の就活状況の把握が困難」が7割強で最多（75.0%）。学生と直接対面する機会が減少、あるいは、ほとんどなくなったことで、就職活動の進行状況を把握しきれないケースが増えていることがわかる。「キャリアセンターからの情報発信手段が限られる」も過半数が選び（54.7%）、学生との接点に課題を感じる大学が多いことがわかる。

一方、「学内企業説明会の中止による出会いの機会損失」が2番目で（69.9%）、コロナ禍において企業と学生の出会いの場をいかに創出できるかに危機感をもつ大学も少なくない。

＜コロナ禍における、2021卒者の就職支援の課題＞



■コロナ禍の就職支援において課題に感じていること

- 大学構内であれば、学生同士が対面で情報交換できる場があったが、コロナ禍によって学生生活がオンライン中心になり、孤立した就職活動になりやすい点を課題に感じている。 <公立大学>
- 対面での相談件数が減少しているため、就職活動がうまくいっていない学生のフォローがしにくい状況。 <私立大学>
- オンラインのため、こちらの熱意が伝わりにくい、学生の温度感がつかめないという状況。 <私立大学>
- 学生と企業との接点が減り、企業選択や志望理由の点で多くの学生が例年以上に苦労しています。大学としてもどのように支援していくか悩みどころです。 <私立大学>
- 個別相談、カウンセリングもオンラインでは手続きが煩雑で、学生も気軽にキャリアセンターを訪問するという感覚ではなく、相談件数が減少しています。 <私立大学>
- 学生へあらゆる手段で連絡をするもつながらず、どのように接点をつくるべきかを課題としている。 <私立大学>

■学生の相談内容の変化

- オンラインでの模擬面接の希望が増加した。 <私立大学>
- 学内企業セミナーや合同企業説明会などが中止になったため、企業探しの相談が特に多かった。 <私立大学>
- 採用中止・中断に関する相談や報告、また二次募集の問い合わせが多かった。 <私立大学>
- 会社説明会や面接がオンラインで行われ、実際に会社に出向いたのが最終面接のみで、実際ここに決めていいのか、決め手に欠けるという相談が多かった。 <国立大学>

2. 2022年卒者への就職支援

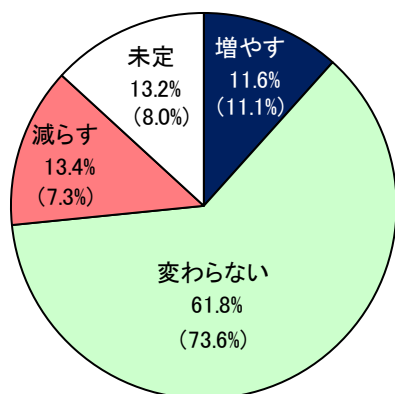
[1] 就職ガイダンスの実施状況

ここからは、2022年卒者向け（現3年生）への就職支援についてデータを紹介したい。

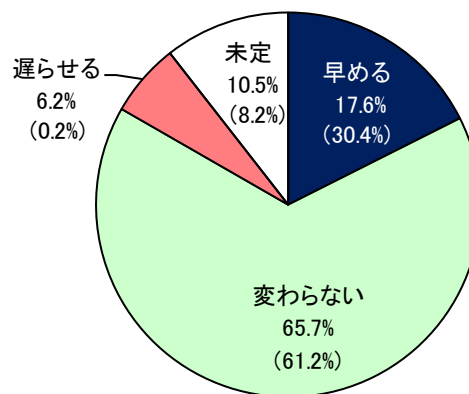
まず、オンラインを含む就職ガイダンスの回数の増減と時期に関して尋ねた。ガイダンスの回数は「変わらない」が61.8%と最も多いが、「減らす」(13.4%)が「増やす」(11.6%)をやや上回った。

実施時期は、「変わらない」が約6割強(65.7%)と多いものの、「早める」が前年から減少(30.4%→17.6%)。具体的な実施時期（予定も含む）を見ると、ほとんどの月で前年度に比べ実施率が下がっている。特に、緊急事態宣言中の4月、5月において前年より大きく減少している。新型コロナウイルスの流行という不測の事態で中止を余儀なくされ、且つ、オンライン化への切り替えに時間を要した大学も一定数あったことが、このデータからうかがえる。

<就職ガイダンスの回数>



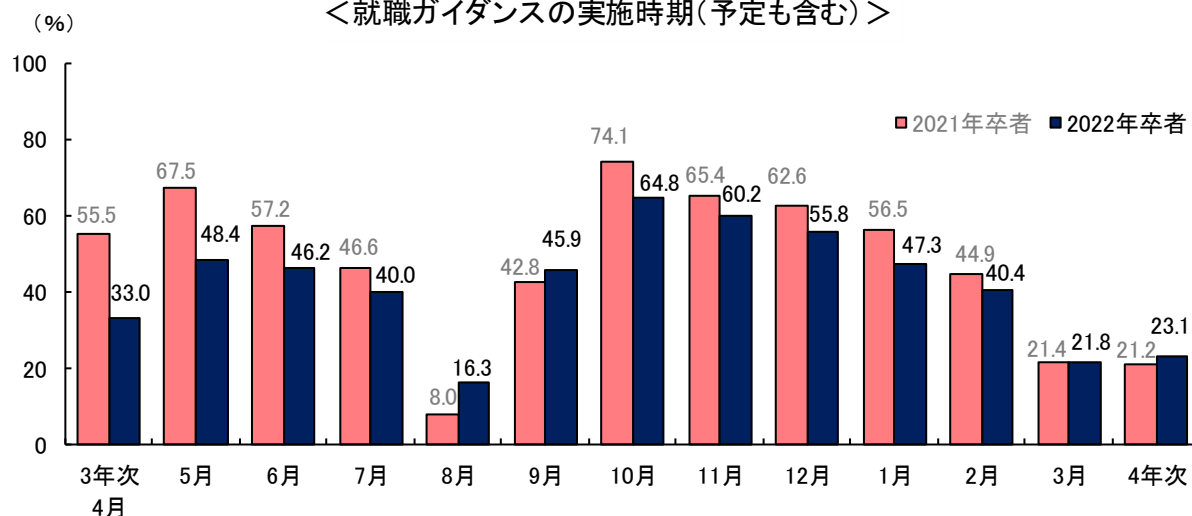
<就職ガイダンスの時期の変更>



※オンラインを含む
※（ ）内は2019年9月調査の数値

※オンラインを含む

<就職ガイダンスの実施時期(予定も含む)>

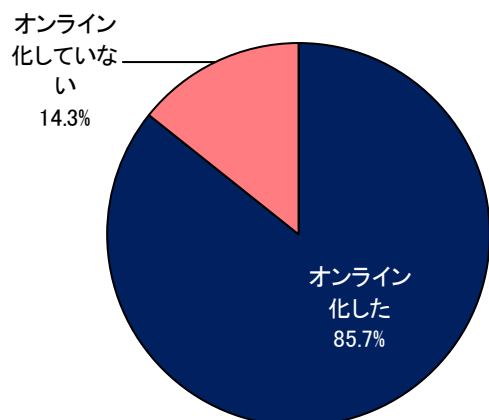


※オンラインを含む

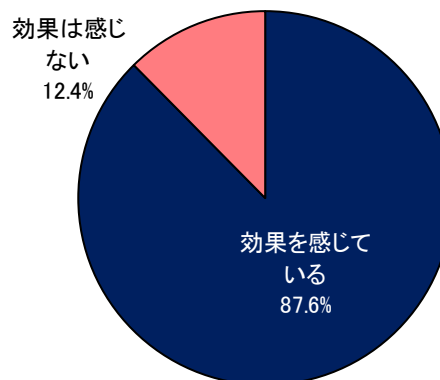
【2】 就職ガイダンスのオンライン化の有無

新型コロナウイルス感染拡大等により、就職ガイダンスをオンライン化したかどうか尋ねた。「オンライン化した」が8割強（85.7%）で、リアル（対面）からオンライン化へと一気にシフトしていることがわかる。さらに、その効果について尋ねたところ、「効果を感じている」という回答が約9割（87.6%）に上り、オンラインでの実施に肯定的な意見が多数を占めた。

＜就職ガイダンスのオンライン化の有無＞



＜オンライン就職ガイダンスの効果＞

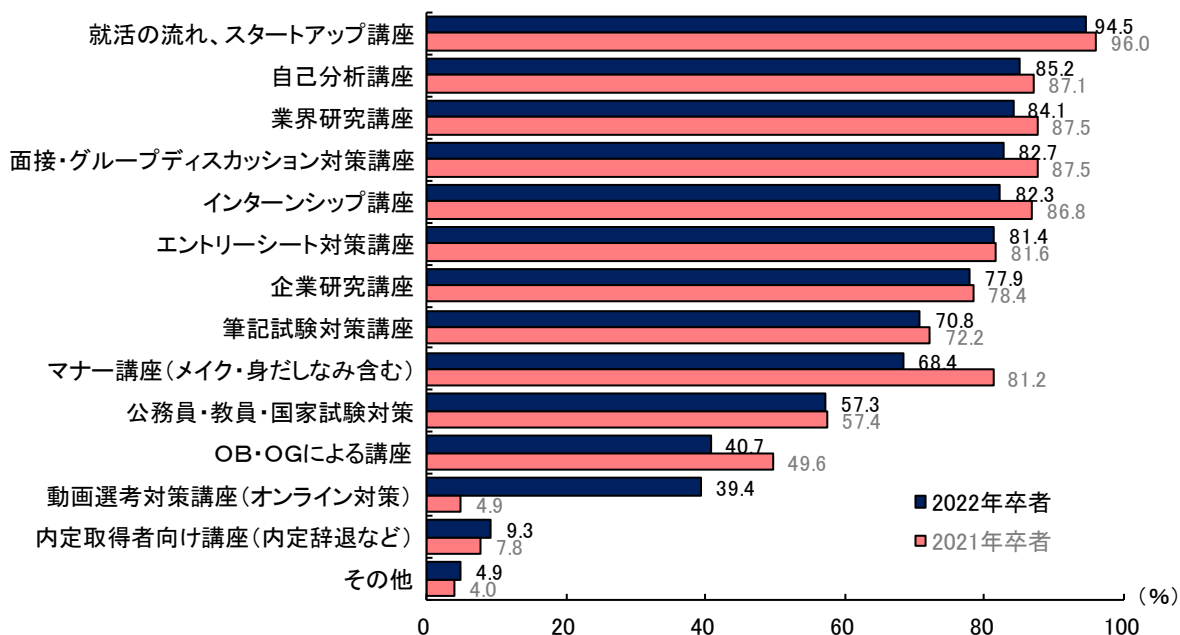


【3】 就職ガイダンスの実施テーマ

2022年卒者を対象としたガイダンスのテーマを見ると、「就活の流れ、スタートアップ講座」から「エントリーシート対策講座」まで8割を超え、幅広い内容で実施していることがわかる。

前年調査で4.9%だった「動画選考対策講座」が、4割に急上昇（39.4%）。一方で、前年8割を超えていた「マナー講座」は6割台（68.4%）に減少した。基本的な内容は踏襲しつつも、就活のオンライン化に即した内容へと変更していることがわかる。

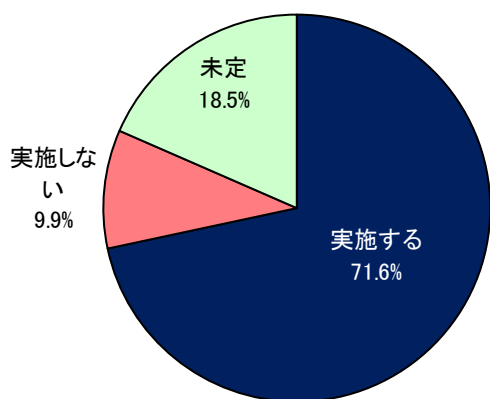
＜2022年卒者に実施するガイダンスのテーマ＞



[4] 業界研究・企業研究セミナーの実施状況

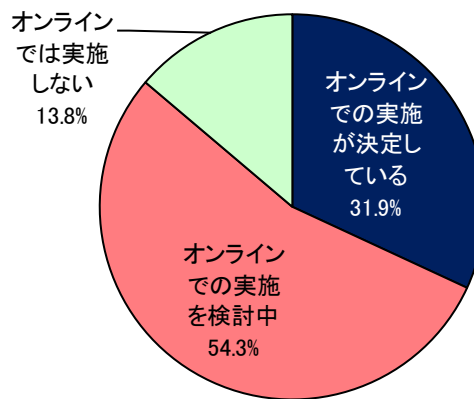
採用広報解禁前の学内セミナー（業界・企業研究セミナー）の実施について尋ねたところ、「実施する」が約7割と大半を占めた（71.6%）。実施予定の大学にオンライン化について重ねて尋ねると、「オンラインでの実施が決定している」が約3割（31.9%）。「オンラインでの実施を検討中」が過半数（54.3%）に上り、学内セミナーについてもオンライン化が進みそうだ。オンラインであっても変わらず企業と学生の出会いの場を確保できるよう取り組みたいという大学が多いようだ。

＜3月より前の業界研究・企業研究
セミナー実施状況＞



※オンラインを含む

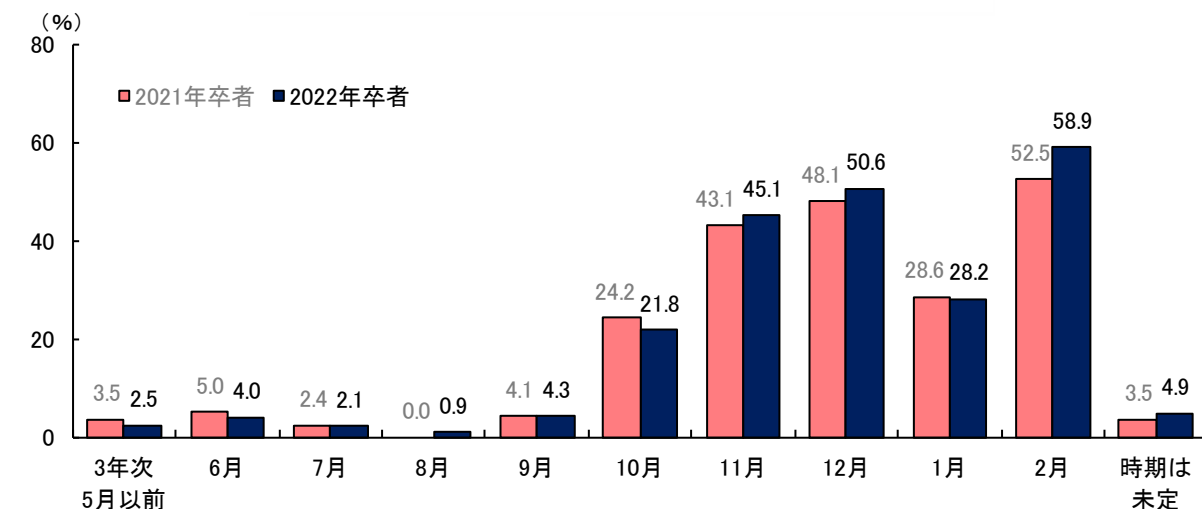
＜オンラインでの実施予定＞



※セミナー実施予定の大学が回答

業界研究・企業研究セミナーを実施する大学に、実施（予定）月をすべて選んでもらったところ、採用広報解禁直前である「3年次の2月」という回答が6割近くに上った（58.9%）。次いで、「12月」（50.6%）、「11月」（45.1%）の順に多い。前年調査よりポイントが増えており、オンラインを含め、前年度以上に秋以降の実施が増えそうだ。

＜業界研究・企業研究セミナーの実施時期（予定も含む）＞

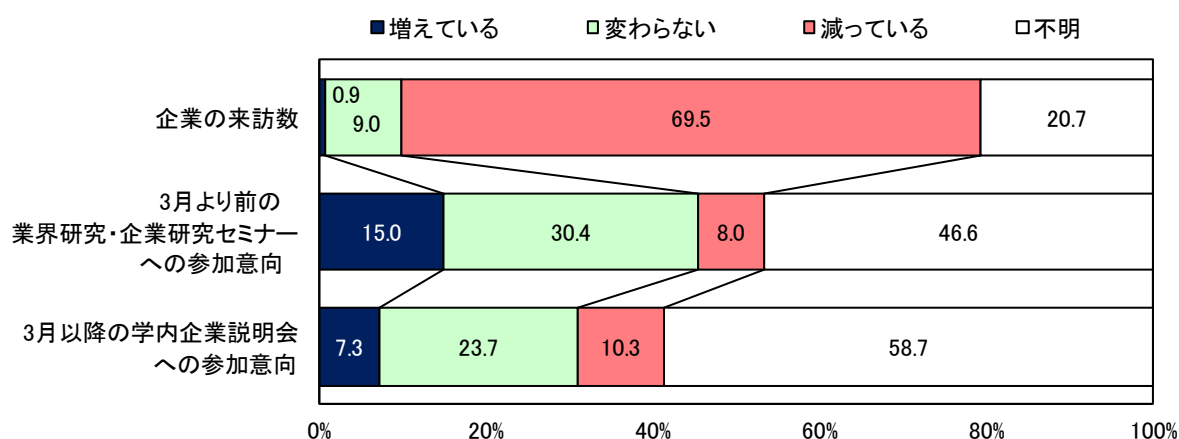


※オンラインを含む

[5] 企業からのアプローチ

企業の来訪状況や、大学主催の業界研究・企業研究セミナー、学内企業説明会への参加意向の増減について尋ねた。企業の来訪数は「減っている」が約7割（69.5%）に上り、オンラインを含めたとしてもなお減少しているという大学が大半だ。業界研究・企業研究セミナーと学内企業説明会については「不明」という回答が目立ち、企業の参加意向を汲む段階にない大学も少なくないことがわかる。

<2022年卒者に対する企業のアプローチ(前年度と比べて)>

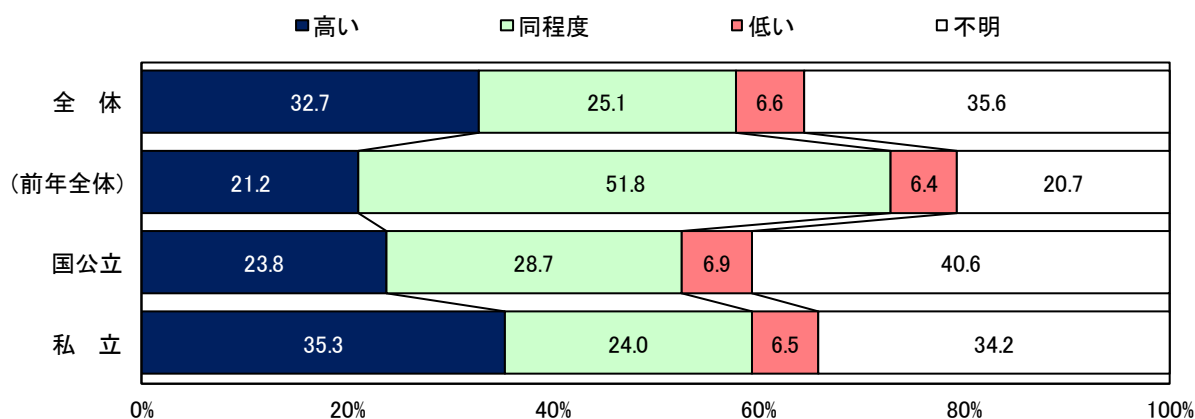


※オンラインを含む

[6] 学生の就職に対する意識所見

2022年卒者の就職に対する意識について所見を尋ねると、「高い」（32.7%）が「低い」（6.6%）を上回り、前年調査に比べて「高い」が10ポイント以上増えた。意識が高まっていると考える理由として、先輩たちの就職活動状況から危機感を高め、早期から就活準備をしたり、個別相談を申し出たりする学生が増えたことが挙げられた。

<2022年卒者の就職に対する意識(前年度と比べて)>



■ 2022年卒者の就職に対する意識が高まっていると思う理由

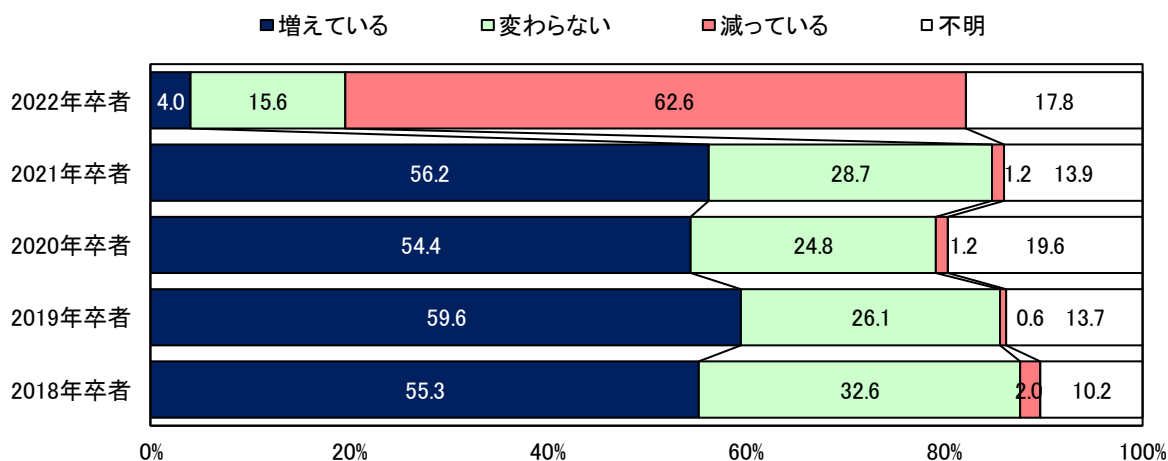
- コロナによる就職環境の悪化を懸念し、早くから動き出す学生が増えているように感じる。 <私立大学>
- 22年卒者対象の講座や単位制インターンシップの参加者が前年と比べて多い。 <私立大学>
- 例年に比べ、3年次のこの時期における支援相談が増えた。 <私立大学>

3. インターンシップ等（※）について

[1] インターンシップ等の求人状況

今年度（2020年4月～2021年3月）のインターンシップ等の求人について尋ねたところ、「減っている」という大学が全体の6割強（62.6%）に上った。2021年卒者までの4カ年の推移では、「増えている」が半数を上回る状態が続いていたが、インターンシップに関しても状況は一変した。

＜企業からのインターンシップ等求人状況(前年度と比べて)＞

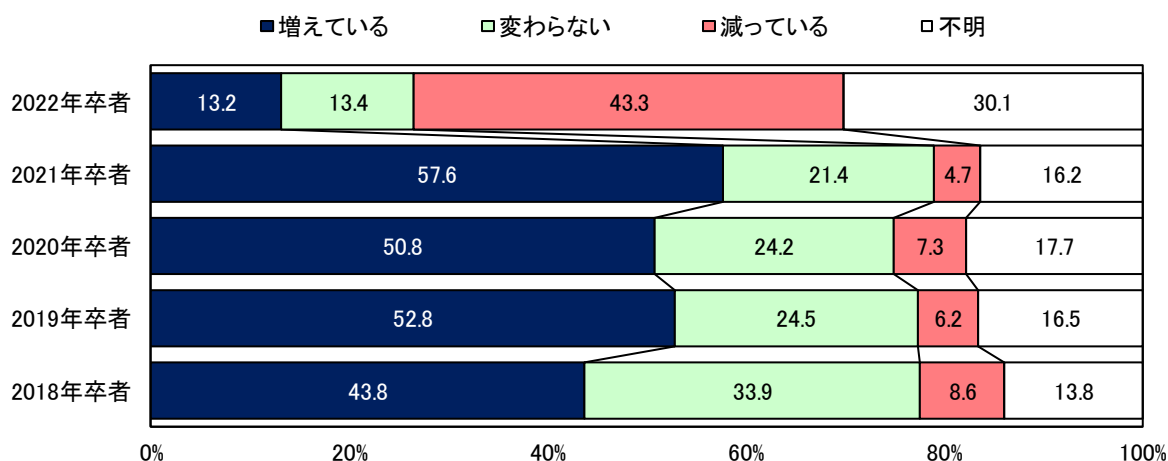


[2] 学生の参加状況

一方、学生の参加状況はどうだろう。前年度よりも参加が「減っている」という大学が4割を超え（43.3%）、「増えている」を大きく上回る。前年調査までとは逆転しており、インターンシップ求人の減少に伴い、学生の参加率も減っているものと見られる。

また、「不明」が3割を占めており（30.1%）、コロナ禍での課題でトップに挙げられた、学生の動向把握が難しい様子（4ページ）が、この指標からも読み取れる。

＜学生のインターンシップ等参加状況(前年度と比べて)＞



※「インターンシップ（就業体験を伴う複数日程のプログラム）」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

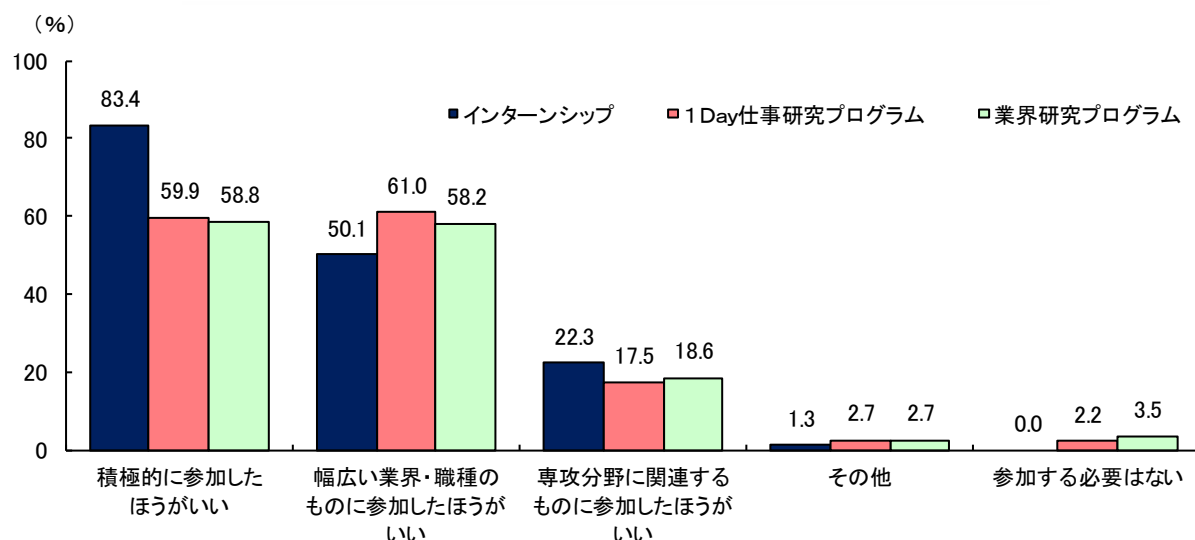
【3】インターンシップ等に関する見解

インターンシップ等のプログラムへの参加に関して、大学側がどのように捉えているかを尋ねた。就業体験を伴う複数日程のインターンシップに関しては、「積極的に参加したほうがいい」が8割を超えている（83.4%）。単日開催の1Day 仕事研究プログラムや、就業体験を伴わない業界研究プログラムに関しても、「積極的に参加したほうがいい」が約6割（59.9%、58.8%）に上り、参加を推す声は少なくない。

コロナ禍で企業との接点が減少する中、企業の情報収集や学生の就業意識を高めるためにも、幅広く様々な形式のものに積極的に参加してもらいたいとの考えが多数を占めた。

また、学業への配慮を求める声や、低学年向けプログラムの拡充を望む声など、様々な意見が寄せられた。

＜学生のインターンシップ等のプログラムへの参加についての考え＞



※インターンシップ:就業体験を伴う複数日程のもの

※1Day仕事研究プログラム:就業体験を伴う1日以内のもの

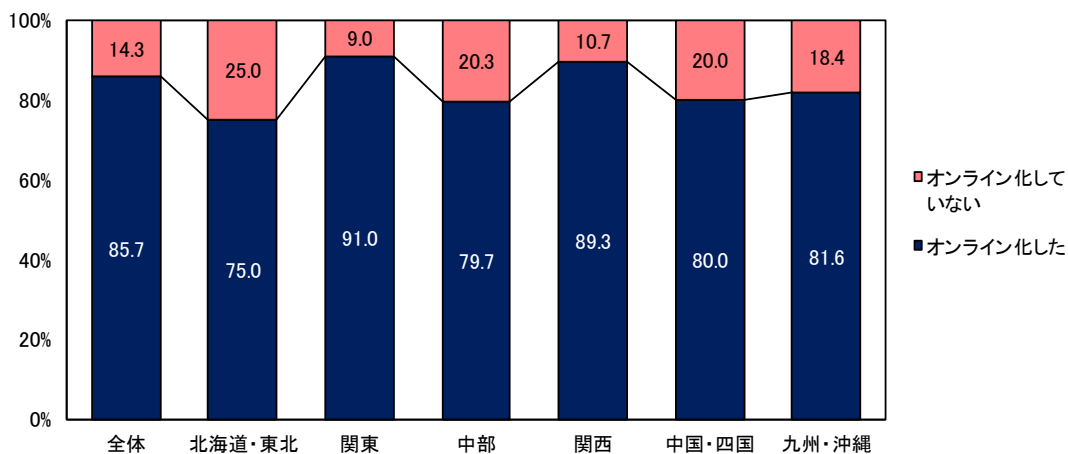
※業界研究プログラム:日数にかかわらず就業体験を伴わないもの

■インターンシップ等に関する意見、要望

- 視野を広げるために、機会があれば、日数、対面・Webにかかわらず積極的に参加してほしい。 <私立大学>
- コロナ禍でインターンシップの受け入れ企業が減少している中、どのような形態であれ、興味あるものに参加することには意味があると考えます。 <公立大学>
- 実体験を通し、肌で社会や会社を知ることによって入社後の社会人生活に向けた理解が深まり、ミスマッチや早期退職なども予防することができると思います。 <私立大学>
- 個人が興味のある一部分に目を向けるだけでなく、多くのことを経験し、幅広い視野で物事を見てもらいたい。 <国立大学>
- 職業観やキャリア観を養うためには多様な視点を得る必要があり、1dayのものでも参加した方がいい。 <私立大学>
- 学生には授業を最優先にと伝えているので、平日であれば、オンラインで夕刻以降のもの、対面型であれば土日など、配慮いただきたい。 <私立大学>
- 低学年向け（1・2年生）のインターンシップの拡充。 <私立大学>

■ 巻末データ

1-① 就職ガイダンスのオンライン化の有無（地域別）

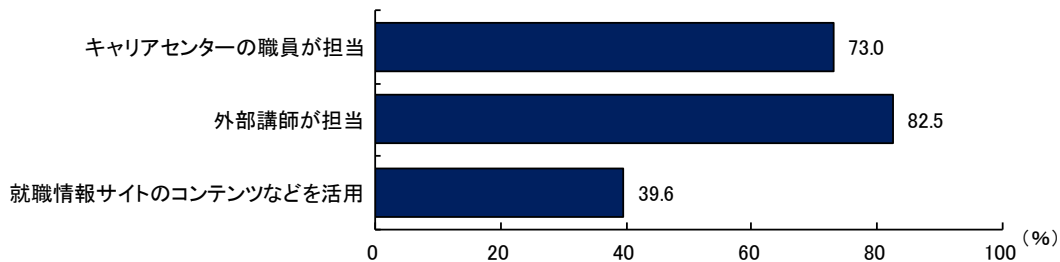


1-② オンライン就職ガイダンスの実施形態

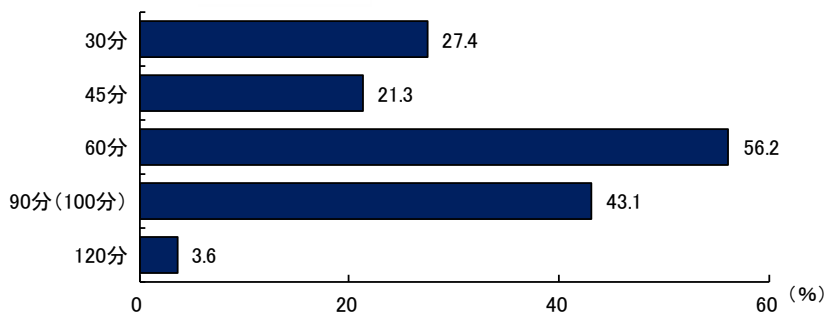
<配信形式>



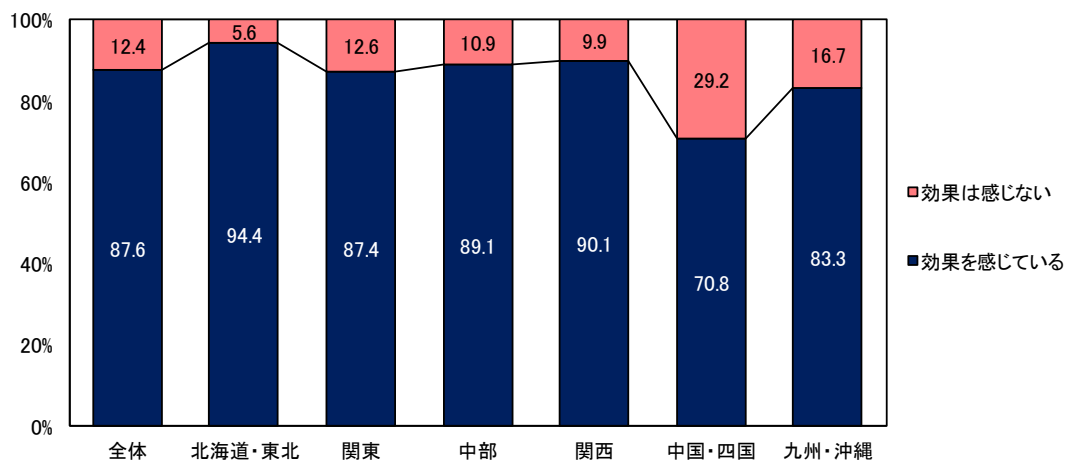
<実施内容>



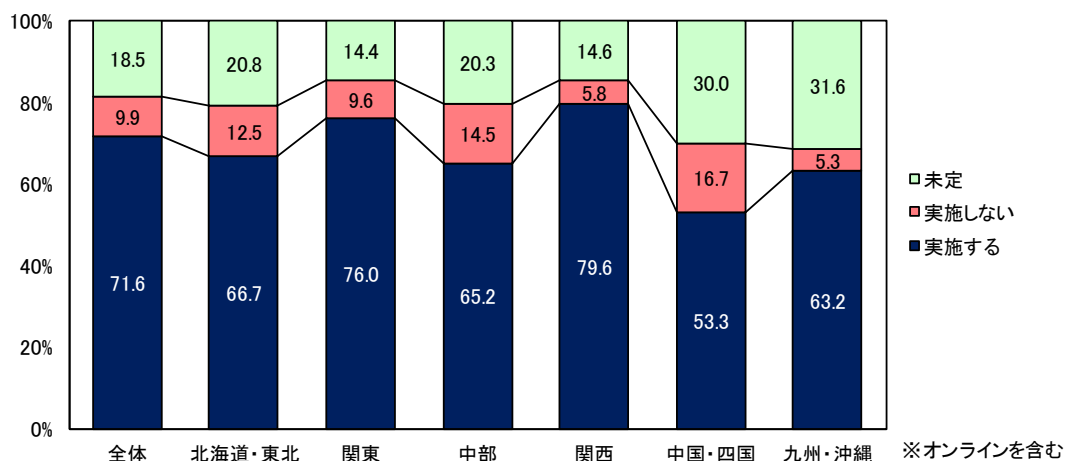
<所要時間>



1-③ オンライン就職ガイダンスの効果（地域別）



2-① 3月より前の業界研究・企業研究セミナー実施（地域別）



2-② 業界研究・企業研究セミナーのオンラインでの実施予定（地域別）

